

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人と人がデジタルでつながる ~People Connected by Digital~

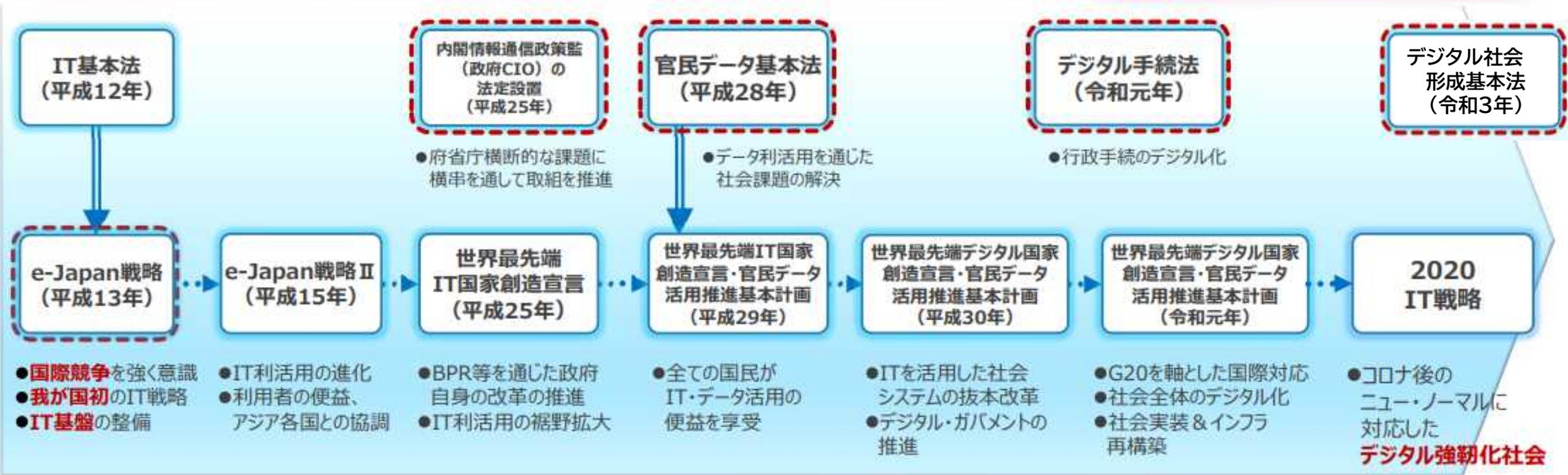
スマートシティ伊勢推進協議会

デジタル社会を 取り巻く情勢

伊勢市 情報戦略局 デジタル政策課
課長 奥田 教行

これまでのIT戦略(R3.9.6 第1回デジタル推進会議 資料を一部改変)

- 我が国のIT戦略は平成13年の「e-Japan戦略」から始まり、主にインフラ整備とIT利活用を推進。
- その後、政府CIOの設置及び官民データ基本法の成立等により、「データ利活用」と「デジタル・ガバメント」を戦略の新たな柱として推進。

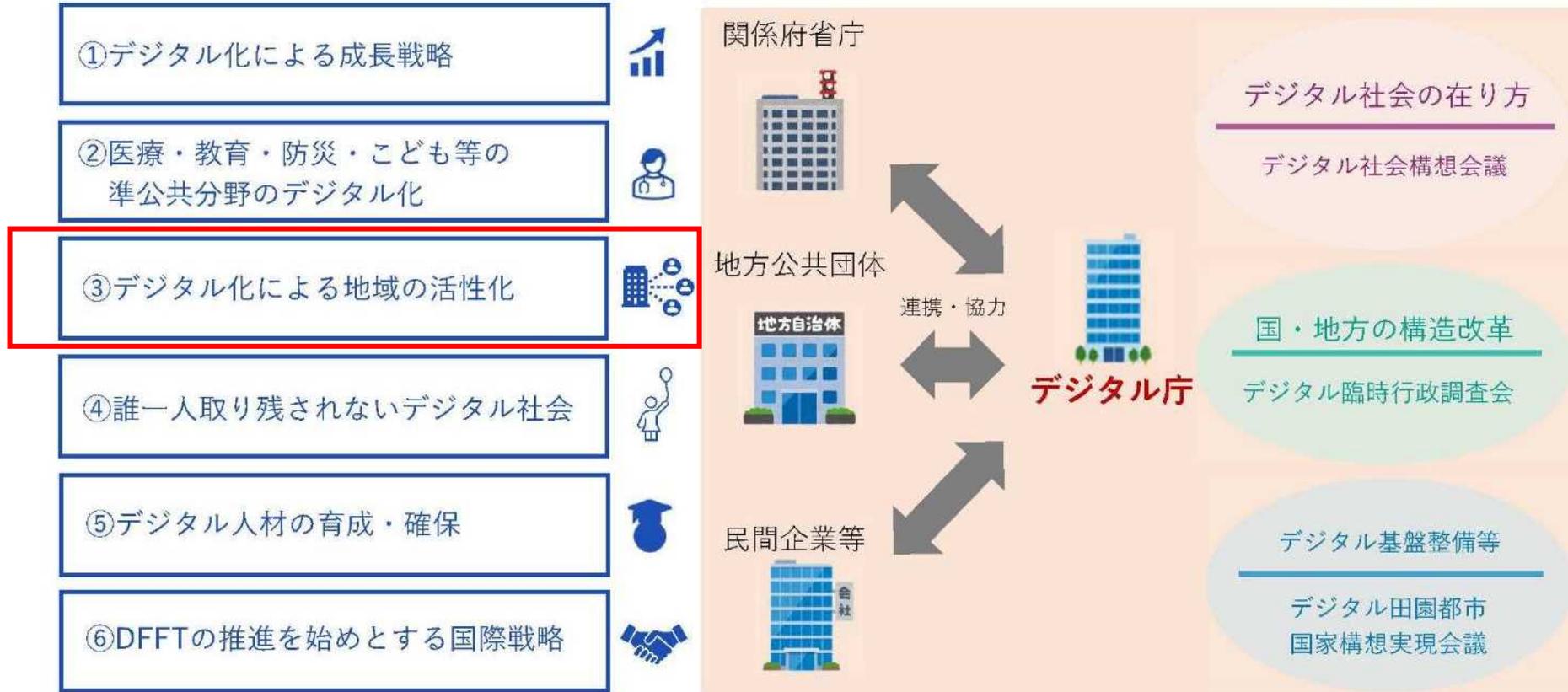


デジタル社会の実現に向けた重点計画(R3.12.24)

— デジタルにより目指す社会の姿 デジタル社会の目指すビジョン

- ・「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」（「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」(R2.12.25)）
→「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を進めることに繋がる。

「目指す社会の姿」を実現するために 以下①～⑥が求められる。



③デジタル化による地域の活性化

課題認識

デジタルは、地域の課題を解決する可能性を飛躍的に増大し、データ収集やアイデア・手法の共有・全国展開も容易にする力を持つ。しかし、インフラ整備が不十分、国と地方、地方と地方、分野と分野で、多くの場合データが繋がっていないなどの課題あり。

目指す姿

地方の共通基盤を国が提供することなどにより、地域からデジタル改革、デジタル実装を推進。地方分散型社会の実現、地域で魅力ある多様な就業機会の創出等を図り、地域の課題が解決され、各地域で培われてきた地域の魅力が向上する社会

- 国による情報インフラ整備、デジタル人材の育成、デジタルによる雇用の増加やエンターテインメントの実現等、**地域のデジタル実装の推進**
- 地方公共団体の情報システムの統一・標準化、行政手続の簡素化・オンライン化、ワンストップ・プッシュ型のサービスの実現等、**デジタル・ガバメントの推進**
- 地域の人材と地域課題のネットワーク化を実現するための取組の推進（地方公共団体が自ら課題を公開し、地域課題の解決に関する提案・共創の募集を促すことで、若年層の移住・新規ビジネスの創出を図る等）
- 以上により、地域雇用の創出、企業の販路開拓、脱炭素化・循環経済への移行の加速等を実現し、都市と同等以上の利便性と地域が誇る独自の資源を活用した魅力が輝き続ける「**デジタル田園都市国家構想**」に寄与

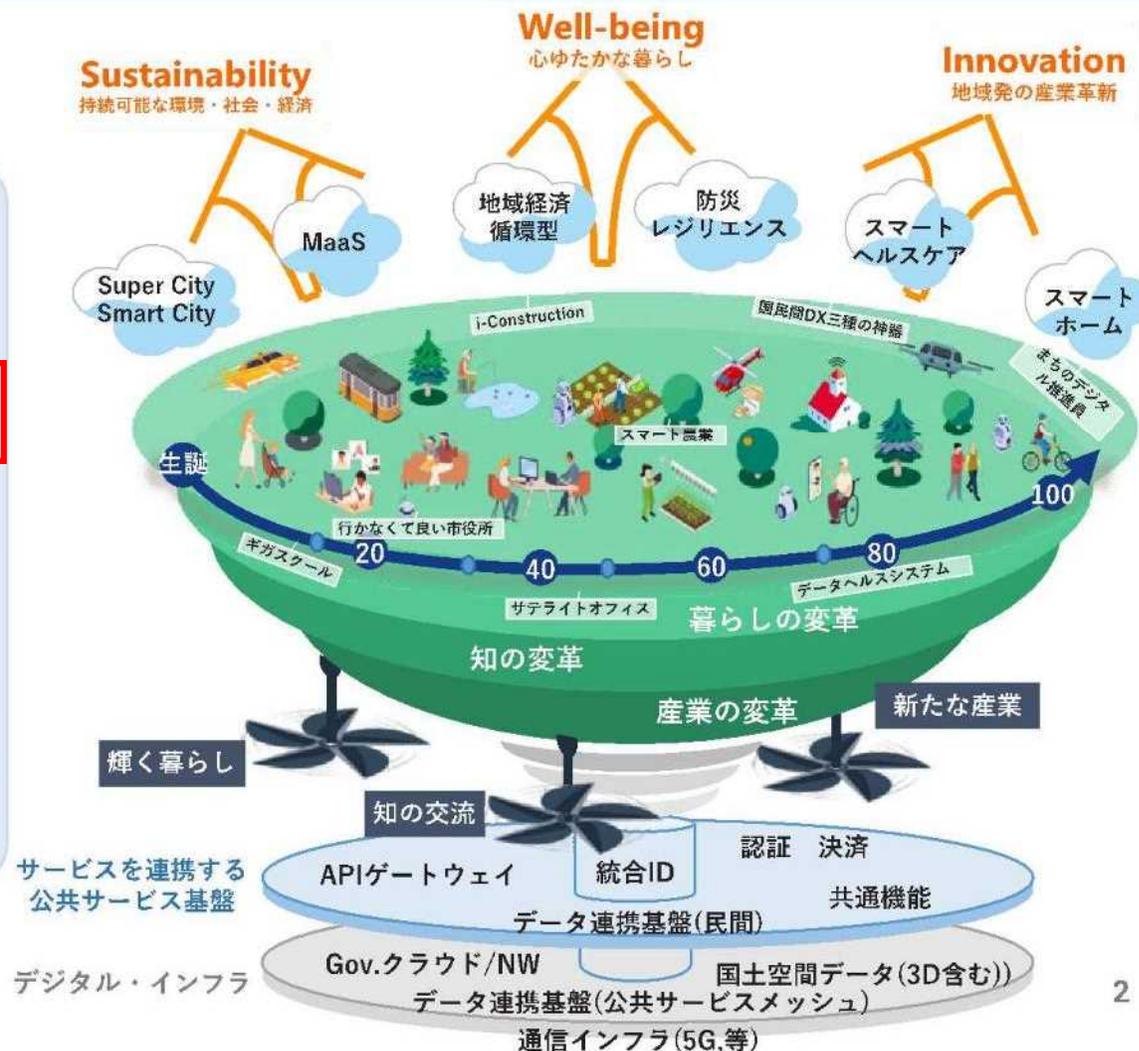
デジタル田園都市国家構想の成功の鍵

2021/12/28 第2回 デジタル田園都市国家構想実現会議 牧島大臣資料

- デジタルの力で、「暮らし」「産業」「社会」を変革し、地域を全国や世界と有機的につなげていく取組。
- 国が整備するデジタル基盤の上に、共助の力を引き出し、各地域で全体最適を目指したエコシステムを構築する。
- 常時発展・改革していくためにも、知の中核として大学を巻き込み、関係者全員でEBPMを実践することが必要。

● 5つの成功の鍵

- ① 人の一生涯の暮らしや生きがいと、地域の新たな産業をデジタルでフル・サポート。
- ② そのため、国、自治体、市民、大学、産業など関係者の力を特定ビジョンの下に総動員。
- ③ 社会活動に必要な機能を近接した空間に集め、その関係性を深めるよう、地域の空間全体も再設計。
- ④ 参加する全関係者がEBPMのサイクルを共有し改善の有無を検証し、取組の方向性を確認。
- ⑤ 構造化されたデジタル共通基盤（インフラ、データ連携基盤・公共メッシュ、サービス）の整備・浸透。



デジタル田園都市を支えるデジタル基盤の構築について

2021/12/28 第2回 デジタル田園都市国家構想実現会議 牧島大臣資料

- デジタル田園都市の実装は、**まずは、先進的なサービスの開発・実装から展開し、徐々にその充実を図る。**
- 民間同士、官民など、**セクター間のデータ連携実需が見えてきた段階で、データ連携基盤の整備**をはじめめる。
- KPIに基づく**EBPMを基礎に、取組全体の改善を随時、アジャイルに続ける**こととする。



まずはサービスから

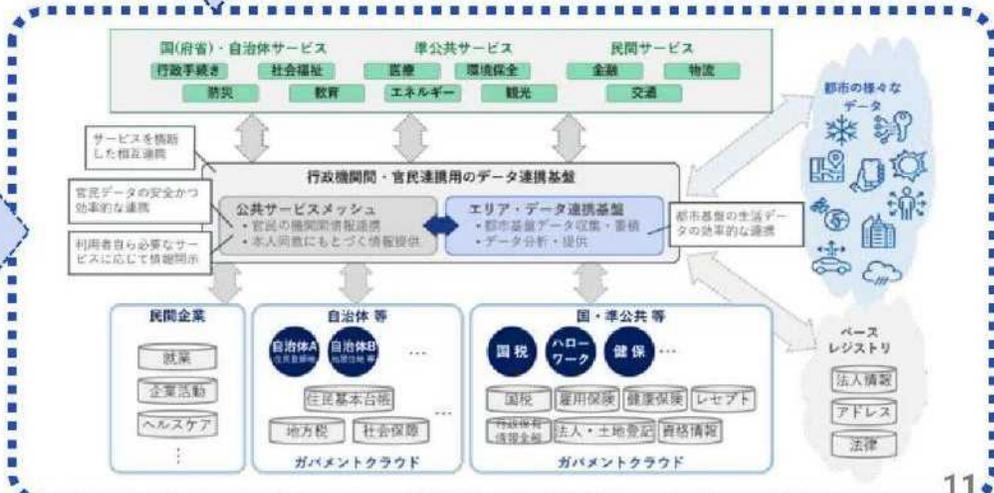
- Super City / Smart City、MaaS、スマートヘルス、スマート防災、スマート農業、スマートホーム、行政のDXなど、いずれの切り口からでも、それぞれの**地域の実情に合わせ、デジタルの効果を実感できる分野から、官民連携してサービスの構築**を行う。
- 特定のVision/KPIを共有しつつ、徐々に提供するデジタル/サービスのメニューを充実。**サービス間のデータ連携が見えてくる段階で、国が整備を進めるデータ連携基盤の実装を進める。**

デジタル・インフラはしっかり整備

- 国の主導により、民間活力も活用しつつ、**最先端のデジタルインフラを日本中にしっかりと整備。**

熟度が上がってきたらデータ連携基盤を整備

- 行政機関間でデータ交換を行うための基盤、「**公共サービスメッシュ**」は、**国自身が整備を行い、自治体事務にも提供**を行う。
- 官民連携や民間サービス間でのデータ交換を行うための**エリア・データ連携基盤**については、**コアとなる部品とアーキテクチャを国が提供**する。
- **データ連携基盤の機能、使い勝手などについては、各エリアでの利用状況屋現場の声を踏まえ、随時改善**を続けることとする。
- こうした基盤の整備によって、全てのサービスにおいて、必要に応じ、国、自治体、民間企業、教育・医療など準公共分野のサービスを担う機関、ベースレジストリ、インターネット上にあるオープンな情報などにアクセスでき、データの利活用が行える環境を構築する。



行政におけるデジタル化推進

市民サービス向上 のためのデジタル化

- ・ 行政手続きのオンライン化
- ・ マイナンバーカードの普及・活用
- ・ 防災情報の発信
- ・ LINEの利活用
- ・ 各種オンライン相談窓口の設置
- ・ キャッシュレス決済の導入
- ・ 教育分野のデジタル技術、タブレット活用

組織運営の効率化 のためのデジタル化

- ・ 伊勢市デジタル推進本部の設置
- ・ 伊勢市デジタル行政推進ビジョン(基本計画)の策定
- ・ 伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の制定
- ・ デジタル技術を活用した業務効率化

地域課題を解決する ためのデジタル化

- ・ 高齢者向けスマートフォン教室開催
- ・ 観光分野のデジタル技術活用(混雑状況配信・オンラインツアー等)
- ・ オープンデータ活用、宇治山田商業高校と連携した課題解決
- ・ 公共交通バスロケーションシステム
- ・ コミュニティバスでのICカード導入

＼スマホで簡単／

伊勢市スマート申請の4STEP

行政手続きのオンライン申請利用イメージ

01 入力
手続きサイトにアクセスし、必要な情報を入力

02 電子署名
マイナンバーカードを専用アプリで読み取り、電子署名

03 支払い
お知らせメールが届いたら、クレジットカードでお支払い

04 受取
郵送される証明書を受取

【申請の翌営業日通知】

【お支払いの翌営業日発送】

※手続きによって手順や必要日数異なります。

行政手続きのオンライン化

伊勢市

こんにちは😊
友だち登録、ありがとうございます

このアカウントは、伊勢市が運営し、行政手続きや市政情報の配信等のサービス提供を行います🌟

以下から「伊勢市LINE公式アカウント利用規約」をご確認の上、ご利用ください💡
https://www.city.ise.mie.jp/shisei/koho_kochu/1008638/1008652.html

伊勢市LINE公式アカウント
伊勢市公式ホームページ

基本メニュー

総合案内	各種お手続き	ごみ
出会い支援	子育て	防災・防犯
LINEで相談	障がい福祉の案内	受信設定

メニューをひらく/とじる

LINEの利活用

伊勢市デジタル行政推進ビジョンの策定

基本理念



～利用者目線で作るデジタル行政～
市民に優しく、暮らしを便利に



行政サービスのオンライン化・デジタル環境の整備等を推進し、デジタル技術を活用しようと思える価値の創出を目指します。推進に当たっては、利用者に優しいUIの設計を心がけるとともに、市民のデジタルリテラシーの向上にも取り組みます。また、事務の効率化・高品質化を図りながら、セキュリティ対策を徹底することで、安全・安心を感じられる行政運営の実現を目指します。

デジタルツール導入による業務効率化

文字を認識しテキストデータへ変換するOCR | 光学文字認識に、AIの学習機能を組み込んだ技術
複合機等のスキャナで帳票を画像として読み込み、ブラウザ上のシステムで作業・確認後、csvで出力する

✓チェック	<input checked="" type="checkbox"/> 是非使いたい	<input type="checkbox"/> できれば使いたい	<input type="checkbox"/> あまり使いたくない
✓チェック	<input type="checkbox"/> 可能である	<input checked="" type="checkbox"/> 検討したい	<input type="checkbox"/> 難しい
自由記述	パターン1に比べてすごく使いやすく、読取精度も100%に近かったのでパターン2を使っていたと思います。少し運用を変更すれば、すぐ使えると思います。		
	パターン1に比べてすごく使いやすく、読取精度も100%に近かったのでパターン2を使っていたと思います。少し運用を変更すれば、すぐ使えると思います。		

1 帳票を読み込む 2 読取箇所をマウスで指定 3 認識結果を確認・修正 4 csvで出力

自動文字認識ソフト(AI-OCR)の活用

庁内連絡ツール(ビジネスチャット)の活用

地域課題を解決するためのデジタル化

人と人がデジタルでつながる ~People Connected by Digital~

スマートシティ伊勢推進協議会

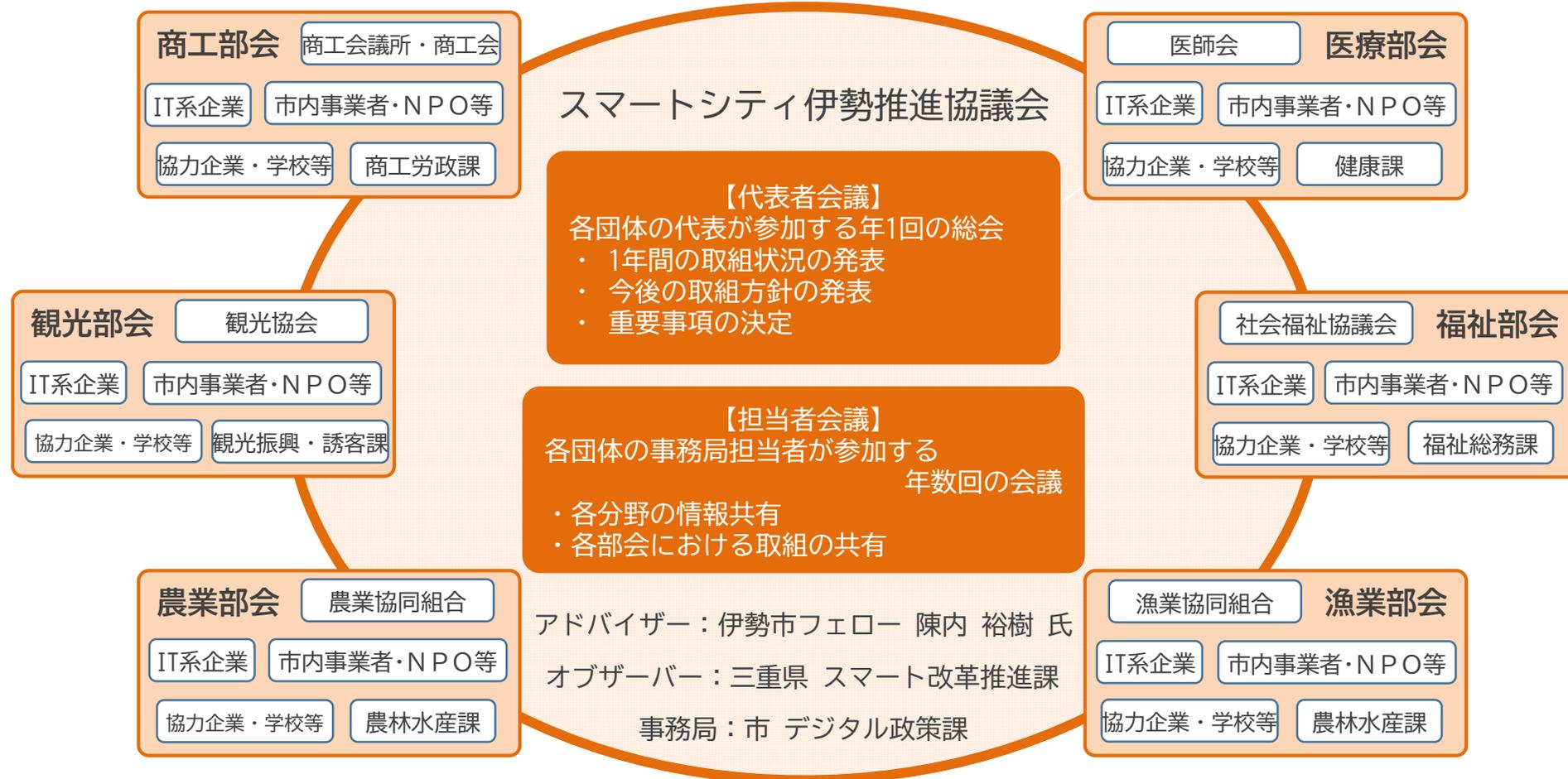


高齢者向けスマートフォン教室の実施風景



観光地混雑状況のリアルタイム配信・予測

スマートシティ伊勢推進協議会の体制



- ・ 担当部会は、分野ごとに本年4月以降に体制が整った分野から立ち上げていく予定。
- ・ それぞれの分野の主な団体と市担当部署に加え、市内事業者や学校、IT企業等の参加も呼び掛けていく。
- ・ これまでに参画団体の事務局担当者で行ってきた準備会議にて、部会には若い方の意見を積極的に取り入れていくべきという意見があったことから、若い方たちの参加も促進していく。